

## 前期始業式 式辞

今日から新学期が始まります。昨日、235名の新入生を迎え、香風高校に活気のある学校生活が始まろうとしています。新年度という節目を迎え、私が皆さんにお願いしたいことが1つあります。

昨日、入学式でも新入生に話をさせていただきましたが、高校生活は希望に満ちており、多くの夢が皆さんを待っていると思います。もし、具体的な夢が思う浮かばない人は、いずれ自分だけの夢を見つけることができると思います。しかし、高校生活は楽しいときばかりとは限りません。苦しいとき、辛いとき、挫けそうになることもあるかもしれません。そんなときは、立ち止まって考えてほしいのです。「人生は、いつも今が始まり」です。つまずいても、転んでも、起き上がって歩き出せばいい。きっと転んだ分だけ、人の痛みがわかる強い自分になっています。むしろ、現代社会では失敗しなかった人より、つまずいてそこから立ち上がった人を高く評価します。つまずいたときに大切なことは一つです。「どうせ無理」という言葉を使わないことです。

夢の多くは一見叶いそうにないことで、いま出来そうにないことを追いかけているから夢なのです。だから、周りの人に「どうせ無理」という言葉を使われるかもしれません。この「どうせ無理」という言葉は、人の自信と可能性を奪ってしまう最悪の言葉です。この言葉を使うだけで、何もしなくて済んでしまうから、とつても楽になれる恐ろしい言葉でもあります。でも、できるかできないかは、いったい誰が決めるのでしょうか。「やってみないとわからないはずなのに、やったこともない人が決めるのは変じゃないのかな」と思います。

本校の1階に飾ってある卒業生のパネルを見たことがあると思います。その中には、医者や科学者、東京パラリンピックの銀メダリスト、またあの中になく卒業生の中には、プロバスケットボールの選手や皆さんも知っている日本を代表するアーティストもいます。このような人たちも最初、周りから見れば届きそうもない夢を持ちました。おそらく周りから「どうせ無理」という言葉をかけられた可能性があります。しかし、あの方々は全員「どうせ無理」ではなく「どうすれば」を追求しました。その結果、夢を現実のものとししました。皆さんがご存じの大谷翔平選手もそうです。テレビのCMでもありましたとおり、「二刀流が無理だと言われた回数 ∞ (無限大)」「二刀流が無理だと思った回数 0」。おそらく彼は絶対に「どうせ無理」という言葉は使わなかった。だから、世界ナンバーワンのプレイヤーに上りつめました。もし、大谷選手が「どうせ無理」という言葉を使っていたら、世界中が感動したあのできごとでもなかったでしょう。

皆さんにとって人生は一度きりです。香風高校に入学した以上は、夢と希望を追い求める高校生であってほしいと思います。今日お話ししたことを、これからの学校生活の参考にしてください。みなさんにとって、よき1年がスタートすることを願っています。

令和5年4月11日

兵庫県立西宮香風高等学校長 桑田 圭介